

議長定例記者会見の概要

日 時：令和6年4月17日（水）
午前11時35分～11時50分
場 所：議長応接室



4月臨時会を終えての議長の所感

（濱砂議長）

本日は大変お忙しい中、お集まりいただき、心からお礼を申し上げます。

先ほどの本会議におきまして、新副議長に野崎幸士議員が選出されました。活発な議員でありますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

また、各常任委員会及び議会運営委員会の委員が選任されました。そのほか、各種行政審議会委員、監査委員も選任されたところであります。

県政の重要課題について調査を行う特別委員会は、地域活性化対策特別委員会、2年連続となりますが防災減災・県土強靱化対策特別委員会、そして、カーボンニュートラル推進対策特別委員会の三つの特別委員会が設置されました。

これで、今年度の議会構成が決まったところであります。

県では今年度、日本一挑戦プロジェクトの本格展開や、宮崎再生のための様々な施策に取り組むこととしております。

一方で、引き続きであります、急速な人口減少や物価高、災害の激甚化・頻発化といった多くの課題に直面をしているところであります。

県議会としましては、県政全般にわたって県民目線に立った徹底した議論を行うことで、議会に求められる役割をしっかりと果たしていきたいと考えています。

新副議長の就任挨拶

(野崎副議長)

このたび、本日の臨時会で副議長に選任いただきました野崎幸士です。よろしくお願いいたします。

先ほど議長からお話がありましたとおり、本県は、人口減少や少子高齢化の急速な進展、また、長引く燃油価格・物価高騰等で大変厳しい状況にありますが、この閉塞感を払拭し、社会や経済、文化等の活性化と再生を図っていくことが最も重要であると考えています。

今後の道のりは険しいものであると思いますが、濱砂議長をしっかりと支えながら、円滑な議会運営に努め、初心を忘れず、感謝を忘れず、そして今の使命感と重責を忘れずに、宮崎のさらなる発展のために尽力してまいりますので、皆様の御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

質疑応答

【宮崎日日新聞】

本日、三つの特別委員会が設置されました。防災減災・県土強靱化対策は昨年度に引き続いての設置となりますが、地域活性化対策は昨年度の人口減少・地域活性化対策から人口減少という言葉が無くなっており、カーボンニュートラル推進対策は、一昨年にゼロカーボン対策という近しいテーマの特別委員会が設定されていました。今年度の特別委員会をこれらのテーマで設置した経緯を教えてください。

(濱砂議長)

まず地域活性化対策についてですが、昨年度の人口減少・地域活性化対策は、急速な人口減少が進んでいる中で、各地域ごとに課題があることを背景として設置しました。今回は特に地域活性化について、宮崎県の各地域において独自にどのような対策を講じていくのかを十分議論していくことを目的として設置しました。

カーボンニュートラル推進対策については、世界的な地球温暖化による環境変化への対策が求められている中で、本県における循環型農林水産業の推進や林道等の環境整備、省エネルギー・省資源の推進等を総合的に検討することによってカーボンニュートラル推進の調査を行っていくため、このような名称となりました。

【宮崎日日新聞】

副議長も御挨拶で人口減少について触れられていましたが、地域活性化も県民が強く求めているところかと思しますので、地域活性化対策特別委員会の設置に当たってのご意見をお伺いできればと思います。

(野崎副議長)

地域活性化対策特別委員会を設置するに当たっては、様々な調査事項の提案があり、その内容は、地域医療や男女格差解消等、多岐にわたっています。これらの調査事項は、今後の委員会の中で、地域活性化に関連する内容に絞って整理していくことになると思います。

【UMK】

特別委員会では、今年度の日本一挑戦プロジェクトの本格展開を意識した調査も行われていくのでしょうか。

(濱砂議長)

日本一挑戦プロジェクトについては、各常任委員会で検討すべきことが多く、また、特別委員会は1年という期間で調査結果を出すことになりますので、プロジェクトも含めた様々な分野の中で、各常任委員会の所管事項をまたがるものについて調査を行っていくことになると思います。

【共同通信】

濱砂議長が野崎副議長に期待されることについてお聞かせください。

(濱砂議長)

野崎副議長は、非常にバイタリティにあふれた方で、いろんな方達とも交流を持っていますので、情報の収集等のほか、様々な行事等に積極的に参加していただけたと思います。

ぜひ、この議会の中で、副議長の立場で持ち味を出していただきたいと思っています。

【共同通信】

日高前副議長が今朝の議会運営委員会の際の御挨拶で、議会改革には積み残しもあり、区割りの問題も出てきたというようなことをおっしゃっていたのですが、議会改革について、野崎副議長のお考えがありましたらお聞かせください。

(野崎副議長)

女性議員も増え、議会や執行部への御意見等について活発な活動ができるようになっていくことを実感しています。

議会改革としては、議会と執行部が両輪となって、お互いに牽引したりブレーキをかけたりできるような関係を築き、県民の代弁者として提言等を行う議会にしていきたいと思っています。

【朝日新聞】

先ほどの特別委員会に関する質疑の際に、地域活性化対策についての課題が多岐にわたっているとの話がありましたが、野崎副議長が、この1年間で、濱砂議長とともに尽力していきたいことについてお聞かせください。

(野崎副議長)

人口減少と少子高齢化がもたらす様々な問題は、全てが相互に関連しています。

過去を振り返ると、平成の市町村大合併がありましたが、これは、その先の少子高齢化と人口減少を見通しての動きであったと思います。しかしながら、この合併による効果として、行政サービスが向上したのか、県民の皆さまを満足させることができているのかということを考えていかなければなりません。

このことから、今の少子高齢化や人口減少に対応できる地域づくりのために、例えば、コンパクトシティ推進や、医療・教育・商業等が整ったモデル地域をつくるなどといったことを議長と話しながら、執行部にも提案できればと思っています。